

主 催 者 挨 拶

山口 俊一 地球環境行動会議(GEA) 会長

2024年10月23日 開会式

おはようございます。ただ今ご紹介をいただきましたGEAの会長を務めさせていただいております山口俊一でございます。天皇皇后両陛下のご臨席を賜りまして、また石破茂内閣総理大臣、そして浅尾慶一郎環境大臣、穂坂泰外務大臣政務官等、共催6省代表の方々にもご出席を頂きました。GEAの国際会議を開催できますことは誠に名誉であり、主催者を代表して今回の国際会議開催に当たり、国内外よりご尽力を賜りました皆様方には、改めて厚く御礼を申し上げます。

2024年の幕開けは、能登半島を襲った未曾有の大地震で明けました。新しい年の始まり、家族が集まった一家団らの幸せな光景が、一瞬で無惨に破壊をされてしまいました。追い打ちをかけるように、今度は豪雨が被災地を襲い、自然の脅威の前に私たちはいかに無力であるか、改めて思い知らされました。今なお復興に苦しんでおる被災地の皆様方には、心からお見舞いを申し上げます。

私たちは子や孫に、次の世代に明るい未来を引き継ぐ責任があります。今回の国際会議は、異常気象をもたらす地球温暖化を止めるべく、「脱炭素とSDGsを同時に実現する施策」をメインテーマに、「気候変動、生物多様性の損失及び汚染の3つの危機克服を目指して」国内外から地球環境問題解決のために、第一線でご活躍をしておられる方々、国際世論に影響力を及ぼす方々にご参加をいただいております。

改めて本国際会議にご参加賜りましたことに厚く御礼を申し上げますとともに、2日間の討議を通じて、どうか国際世論を沸騰させるような施策を提案していただくことを心からお願いをする次第でございます。どうか皆様方のご協力で素晴らしい国際会議になりますように、重ねてお願いをして、主催者代表の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

青木 一彦 GEA事務総局長、内閣官房副長官

2024年10月23日 昼食会

ただ今ご紹介にあずかりましたGEA事務総局長の青木一彦でございます。斎藤十朗元参議院議長がGEA会長をされていたときに、私の父でございます青木幹雄がGEA会長代理を務めていたご縁もあり、このたびGEA役員会のご推薦を受け、GEA実行委員会委員の総意により、事務総局長に就任した次第でございます。

私の前任者でございます清水嘉与子元環境庁長官がこの場にいらっしゃいます。長い間、いろんな意味でGEAを先導していただきまして、心から敬意と感謝を申し上げたいと存じます。ご高齢を理由に、ご自分で望まれての退任であったと伺っておりますが、先ほども^{かくしゃく}豊饒とした姿を拝見し、清水先生の後継者として頑張る気持ちを新たにいたしました。足らざるところがございましたら、どうぞご遠慮なくご指導くださいますよう心からお願いを申し上げます。大先輩に敬意を表することができましたので、安心して先に進めさせていただきます。

年明け早々、大地震が石川県を襲い、甚大な被害をもたらしました。復興もまだ半ばだというのに、今度は豪雨による自然災害に見舞われ、被災地はさらに悲惨な状況を呈しています。改めて被災地の皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。

世界各地で異常気象により、これまで経験したことがない規模で、豪雨、大洪水、早魃、猛暑等の自然災害が頻発いたしております。エネルギーを脱炭素に転換しない限り、地球温暖化が引き起こす異常気象は止まりません。

今回のGEA国際会議では、脱炭素とSDGsを同時に実現する施策の推進について議論を重ねてまいります。国際世論に多大な影響を与える国際機関や権威ある国際的研究機関を代表する方々、具体的なソリューションを有している企業の皆様など、各分野で指導力を発揮している方々を国内外からお招きしていますので、実りある議論の成果は必ず地球環境問題の解決に貢献するものと期待をいたしております。

どうか2日間にわたる国際会議を見守り、その成果を実現できるよう、皆さま方にも応援してくださいようお願いして、私のあいさつとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

浅尾 慶一郎 環境大臣

2024年10月23日 昼食会

ご紹介賜りました環境大臣の浅尾でございます。IPCCのジム・スキー議長をはじめ、GEA国際会議にご参加の皆様、本日はようこそお越しくださいました。環境大臣として心より歓迎いたします。また、本会議を準備いただいた山口会長、小淵会長代理をはじめ、GEA実行委員の方々のご尽力に心より敬意を表します。

今、私たちは、気候変動、生物多様性の損失及び汚染という3つの世界的危機に直面しております。これらの地球環境問題の解決のためには、持続可能な経済社会への変革が必要であります。そうした変革のためには、本日の会議のテーマにあるように、これら3つの危機の克服とSDGsの達成を一体として捉え、統合的に取組を進め、シナジーを発揮させていくことが必要です。

このような背景を踏まえ、本年3月の第6回国連環境総会においては、シナジーの促進に関する決議が採択されました。わが国は、決議提案国として、共同提案国等のパートナーと連携しながら、シナジー強化の取組を主導していく考えです。

来年度以降には、国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) やアジア開発銀行 (ADB) といった国際機関とも連携しつつ、「アジア太平洋シナジーレポート」を作成・公表し、地域の優良事例や経験の発信を通じて、SDGsの達成に貢献していきたいと考えています。

さて、地球の裏側のコロンビアでは、今まさに生物多様性条約のCOP16が開催中であり、前回COP15で採択された「昆明・モンリオール生物多様性枠組」の実施のために重要となる事項が議論されています。また、来月には、アゼルバイジャンにおいて気候変動枠組条約のCOP29が開催され、昨年の第1回グローバルストックテイクの成果を踏まえた次期NDCに関する事項等が議論されることとなります。さらに来月下旬からは韓国において、プラスチック汚染対策に関する第5回政府間交渉委員会が開催され、本年末までの国際条約の策定に関わる作業の完了に向け、交渉が進められます。

このような重要な時期において、世界の英知である皆様にお集まりいただき、3つの世界的危機への対策や、これらの取組を通じたシナジーの推進について議論が行えることは、非常に意義のあるものと考えております。まずは、我々参加者自身が互いの知恵を共有し合い、持続可能な未来への道筋をともに描いていきましょう。

最後になりましたが、今回の会議が実り多きものとなりますよう、心からお祈り申し上げて、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

穂坂 泰 外務大臣政務官

2024年10月23日 ウェルカムレセプション

皆様こんばんは。「GEA国際会議2024」の開催にあたり、皆様をこの歓迎レセプションにお迎えできましたことを、大変嬉しく思います。

「気候変動、生物多様性の損失及び汚染」という3つの世界的な危機は、相互に関連しており、緊急に取り組むべき深刻な地球規模課題です。

これらの課題に取り組む上では、いかにして相乗効果（シナジー）を生み出すかを意識する必要があります。例えば、持続可能な方法で製品を開発し、環境に優しい手段で流通させようとする際には、脱炭素化、生物多様性の保全、汚染の低減について相乗効果を生み出すべく取り組むことが重要です。

このような相互に関連した環境問題の解決の鍵を握るのは国際協力です。世界中の官民のステークホルダーによる、分野横断的な協力とクリエイティビティが求められています。

GEA国際会議は、30年以上にわたり、地球環境問題に焦点を当て、国内外の有識者を迎えて、真剣な議論を重ねてきました。今年の会議にも、経済界、国際機関、大学等の幅広いセクターから、著名な方々に参加いただいております。

この2日間の議論が、3つの危機に対する世界的な行動を強化し、持続可能な社会への道を開く一助となることを祈念して、私からのご挨拶とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

本田 顕子 文部科学大臣政務官

2024年10月24日 昼食会

皆さま、こんにちは。文部科学大臣政務官の本田顕子です。文部科学省を代表して一言御挨拶を申し上げます。

初めに、今回の会議にご参加いただいた地球環境問題に取り組まれている国内外の皆様、会議の開催にご尽力された山口俊一会長をはじめGEA実行委員会の皆様、事務局のご尽力に心より感謝を申し上げます。

昨今、世界各地において、豪雨や熱波などの極端な気象現象が発生しております。我が国でも、今年の夏の全国平均気温が観測史上最高を記録したほか、全国各地で大雨による被害が発生しました。このような中、文部科学省の気候変動予測研究プログラムにおいて、今年7月の記録的な高温や北日本、日本海側の大雨について、地球温暖化の影響が大きく寄与していることが明らかとなりました。

このように、気候変動の影響に対する国内外の関心が高まる中、昨年7月気候変動に関する政府間パネル (IPCC)、第7次評価報告書サイクルが開始されました。IPCCの評価報告書は各国政府等の気候変動対策の基盤となるものです。IPCCを通じて、グローバルな気候変動対策に貢献するため、文部科学省では気候予測データの創出、提供に向けた取り組みを進めております。

このような中、GEA国際会議2024において、IPCCのジム・スキー議長から基調講演を行っていただくとともに、「脱炭素とSDGsを同時に実現する施策の推進～気候変動、生物多様性の損失及び汚染の3つの危機の克服を目指して～」をテーマに議論が行われるなど、非常に時宜を得たものと考えております。文部科学省としても、気候変動への適応や緩和に必要な気候変動予測研究、地球環境ビッグデータ利活用の促進及び革新的なGX技術の研究開発等に取り組み、引き続き持続可能な社会の構築に貢献してまいります。

最後に、地球環境保全と持続可能な発展を実現するため、本会議が今後ますます発展していくことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

庄子 賢一 農林水産大臣政務官

2024年10月23日 昼食会

ただ今御紹介をいただきました農林水産大臣政務官を拝命しております庄子賢一でございます。共催省としてご出席の皆様を心から歓迎をいたしますとともに、開催に当たり、山口会長をはじめ、関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表します。さて、今年の日本の夏は、昨年と並んで統計史上最も暑い夏となりますとともに、石川県能登地域を始めとする全国各地で大雨による被害が発生するなど、近年は自然災害が頻発化、激甚化しております。コメの品質低下や果物の着色不良など、農林水産業は気候変動の影響を受けやすく、また一方で、生物多様性に立脚する産業でもあり、今回の国際会議のテーマとつながりの深い分野でもございます。

今後、国内外でSDGsや環境を重視する動きが加速していくことが見込まれております中、我が国の食料、農林水産業においても、これらに的確に対応し、持続可能な食料システムを構築することが急務となっております。

このため、農林水産省では、CO₂ゼロエミッション化や化学肥料及び化学農薬の低減などの長期的な目標を掲げる「みどりの食料システム戦略」を2021年に策定し、翌2022年には「みどりの食料システム法」を制定いたしました。また、農業生産環境の共通点が多いASEAN各国と協力し、昨年採択されました「日ASEANみどり協力プラン」に基づきまして、「みどりの食料システム戦略」を通じて培ってきた我が国の技術や経験を生かした協力プロジェクトを進めているところでございます。

さらに本年は、我が国の農政の憲法ともいわれております食料・農業・農村基本法が四半世紀ぶりに改正され、新たな柱として、「環境と調和のとれた食料システムの確立」が位置付けられたところであります。これを契機として、今後、みどりの食料システム戦略の下、技術の開発・普及や関係者の行動変容を一層進め、農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現していく所存でございます。

結びに、本国際会議におきまして、活発な議論が行われ、地球規模の課題の解決に貢献し、脱炭素とSDGsが同時に実現されることを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

竹内 真二 経済産業大臣政務官

2024年10月23日 昼食会

皆様、こんにちは。ご紹介をいただきました経済産業大臣政務官の竹内真二です。私から、経済産業省を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、お忙しい中、国内外から本会議にご参加いただいた皆様に感謝を申し上げますとともに、地球環境問題の解決と持続可能な社会の実現に向けたGEAの長年の貢献に心から敬意を表します。地球環境問題への対応には国際的な連携が不可欠であり、世界中の専門家が集まるGEA国際会議はそのための大変貴重な機会であると考えております。

さて、現在、世界のGDPの約9割を占める国がカーボンニュートラルを宣言するなど、気候変動問題の世界の関心は大きく高まっております。世界全体でカーボンニュートラルという目標を達成するには、産業革命以来の化石燃料依存の経済・社会、産業構造から、クリーンエネルギー中心へと構造を変革し、排出削減と経済の成長発展を両立させていくことが必要です。同時に、各国がおかれた経済的、地理的事情は様々であり、昨今の地政学リスクの発現により、世界のエネルギー需給構造も大きく変化する中、実効的な排出削減を進めていくには、エネルギー安定供給の観点も踏まえて、幅広い技術やエネルギー源を活用していくことが不可欠です。

我々日本政府は、石破総理からの挨拶にもありましたとおり、グリーン・トランスフォーメーション、GXを通じ、脱炭素、経済成長、エネルギー安全保障の同時実現を目指します。GX推進に向け、日本政府では、今後10年で150兆円を超える官民GX投資を実現すべく、GX経済移行債を活用した20兆円規模の投資促進策を実行してきております。

また、全産業が一足飛びに脱炭素化できないのが現実であることから、我が国では省エネやエネルギー転換など、着実な脱炭素化を実現する移行に向け、「トランジション・ファイナンス」を推進しております。おかげさまで、この政策手法は革新的だとIEAからもご評価いただいております。今後とも世界のトランジション・ファイナンス市場の確立と拡大に貢献していきたいと思っております。

また、今後、電力需要の増加といった不確実性への予見性を高め、国内投資をさらに後押しするため、エネルギー、産業構造、産業立地、市場創造、また世界の状況、ルール形成を一体的に議論し、より長期的な視点に立った「GX2040ビジョン」を策定していきます。

世界全体の排出削減を推進するためには、国際連携も不可欠です。例えばアジアです。多くの国では、電力の大宗を火力発電に依存し、製造業が経済の多くのウェイトを占めているなど、脱炭素化に向けた共通の課題を抱えています。このため、アジア全体で脱炭素化を推進する枠組であるアジア・ゼロエミッション・共同体(AZEC)を通じ、アジアの事情を踏まえた多様な道筋によるネットゼロの達成を目指しています。先日ラオスで第2回AZEC首脳会合が開催され、「今後10年のためのアクションプラン」に合意しました。サプライチェーン全体の排出量の見える化、トランジション・ファイナンスの推進などを促進するルール形成等を進めます。これにより、アジア全体で脱炭素プロジェクトをさらに生み出し、脱炭素化を図る好循環をつくってまいります。

本年の会議で議論されている「気候変動」、「生物多様性の損失」、「汚染」などは、いずれも今、地球環境を語る際に欠かすことのできないテーマです。本会議が今後の世界全体の持続可能な発展に繋がる機会となることに大きな期待をしております。

最後になりますが、出席者の皆様方の益々の御活躍と御健勝を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

こやり 隆史 国土交通大臣政務官

2024年10月24日 昼食会

国土交通大臣政務官のこやりでございます。共催であります国土交通省を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、今回の会議に国内外からお集まりいただきました皆様を心から歓迎申し上げます。また、会議の開催にご尽力されました山口俊一会長をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

皆さまご承知のとおり、全国各地で観測史上最高の降水量を記録するなど、これまでの常識を越えて自然災害が激甚化、頻発化しております。脱炭素や自然共生など、地球環境を巡る諸課題への対応は、もはや待ったなしの状況にあると認識をしております。こうした中で、「脱炭素とSDGsの同時実現」をテーマに本会議が開催されますことは、まさに時宜を得たものであると考えております。

国土交通省は、自動車や鉄道、船、航空といった運送モードやあらゆる活動の基盤となる公共インフラ、まちづくりの分野を担い、多様な政策実現手段を持っております。私どもも脱炭素、自然共生、汚染対策といった地球環境課題の解決に向けて、現場の強みや技術力を生かしながら、その役割をしっかりと果たしてまいりたいと考えております。

最後になりますが、GEA国際会議2024が国内外の地球環境問題の専門家の皆様による活発なご議論を通じて、持続可能な未来の実現に大いに貢献されることをご期待申し上げますとともに、ご出席の皆さまのご健勝を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。